

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
臨床実習Ⅱ (総合実習)		必修	8	4	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小沢 健一 他	C305	k-ozawa	水曜日 9:00 ~10:00		
授業の目的・概要	<p>臨床実習は、作業療法の現場に学生が出向いて、実際に作業療法が実施されている場面の見学や学内で学習した態度・知識・技術を、実践を通して学習する過程である。学生は臨床実習指導者（臨床実習施設の作業療法士または大学の教員）の指導を受けながら、作業療法を実施する上での基本的態度、知識、技術、技能などについて実践を通して学ぶ必要がある。</p> <p>また、今まで学内で学習した知識と技術・技能を実際場面で統合する過程でもある。臨床実習指導者の指導のもと、作業療法を受けている人について精神的・身体的状態や生活上の立場や環境を評価し、評価に基づく作業療法計画を立て、作業療法を実施する。このプロセスを通して作業療法士としての知識と技術・技能を経験し、保健・医療・福祉にかかわる専門職としての学習を行う。</p>				
学習上の助言	<p>学外での実習の代替として、学内で実習を行う。学習時間は学外実習と同等であり、到達目標も同様であるため、しっかりと学習してほしい。</p>				
教科書	臨床実習Ⅱ・Ⅲの手引き				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	職業人としてふさわしい態度や行動をとることができる。			HSU(1) ~ (5)、OT(1)	
②	対象者の情報や説明を聞き全体像を把握できる。			OT(2)	
③	対象者に対し介入するポイントや作業療法目標について理解できる。			OT(1) ~ (3)	
④	日常的に実施される作業療法の評価・治療の一部を模倣・実施できる。			OT(1) ~ (3)	
⑤	評価や治療経過を通し、その効果や方針について理解できる。			OT(1) ~ (3)	
⑥	日常的に実施される記録および報告を模倣・実施できる。			OT(1) ~ (3)	
⑦	作業療法士業務の管理および運営の補助ができる。			HSU(1) ~ (5)、OT(1) ~ (3)	
授 業 計 画					
<p>身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害のいずれかの事例検討とともに臨床実習場面を想定した実技練習を行う。</p> <p>この実習では、臨床実習指導者の指導を受けながら作業療法過程（評価・計画立案・治療実施・再評価）を学習する。学内実習ではあるが職業人としてふさわしい態度や行動をとり、作業療法士業務の初歩的な補助ができることを目的とする。</p> <p>臨床実習ではクリニカル・クラークシップ（Clinical Clerkship：以下 CCS）を導入する。</p> <p>CCS とは、「助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルと professionalism（態度、倫理観）を育成していく臨床実習形態」である。</p> <p>技術単位で対象者を受け持つ、「技術単位診療参加システム」が核となる。CCS 型実習の特徴として、以下の 3 点がある。</p> <p>①技術を一つの単位として学習を進める 「ROM 測定」、「質問紙を使用した面接」等のように技術項目ごとに対象者を担当し、より実践的な技術を習得する。</p> <p>②見学し、模倣し、実践する 全ての技術項目について、「見学」「模倣」「実施」の段階を踏むことを原則とする。 見学（説明）：学生は対象者に行われている作業療法の内容や目的などについて、実習指導者から説明を受けながらその場面を見学する。 模倣（前期）：見学経験をもとに、実習指導者の手本を模倣し、その場で指導を受けながら実際に取り組む。 模倣（後期）：実習指導者は徐々に手を引き、必要なだけの援助となる段階である。 実施（見守り）：学生が十分に経験を重ねたうえで、実習指導者の見守りのもとであれば、一般的な症例に対するその技術や評価のリスクを概ね把握したうえで行えるレベルである。あくまで模倣の延長線上にあり、学生が実習指導者から独立して行うものではない。</p> <p>③できることから実践する CCS 型臨床実習ではできる技術を一つの単位として複数の対象者を担当し、十分模倣したうえで実施に至る。評価・治療の順序性は必要なく、より多くの技術項目を経験し、習得を目指すことになる。</p>					

事前事後学習内容・必要時間

学生はスキル修得のために、以下の 6 点を日々繰り返すことが必要になる。

- ① 日々の目標を立て、達成できるように主体的に行動する。
- ② CCS チェックリストで自分の経験状況を確認する。
- ③ 実習記録を書き、その日の経験を振り返る。
- ④ 実習指導者とのディスカッションで臨床での考え方を学ぶ。
- ⑤ 自己学習を通じて、経験したことと知識を結びつける。
- ⑥ 対象者の安心・安全に配慮し、対象者の心情や回復に関心を持つ。

学習者である学生は、学習すべき各技術項目の実施を任せてもらえるよう、主体的に取り組まなければならない。不明瞭な点は実習指導者に確認し、理解を深めるための自己学習が必要である。

CCS チェックリストの利用の仕方

日々経験したことを記録し、原則として実習日誌とともに当日の夕方に提出して実習指導者からフィードバックを受ける。見学や説明を受けた場合は「見学」にチェックを入れる。実習指導者の指導のもとにそれを模倣して行った場合は「模倣（前期）」に回数（正の字）を記入する。「模倣（後期）」「実施（見守り）」の認定は指導者が行う。一般的な症例においてその検査、治療及び指導をリスク管理も含めて行えるようになったら「実施（見守り）」とし、その日付をチェックリストに記入する。

自己学習ノートの作成について

実習指導者から指導を受けた時のメモから重要なポイントを自己学習ノートにまとめる。また、関連した内容を教科書などから調べ、その日に学んだことの理解を深める。形式については指定しないが、自宅で 1～2 時間程度でまとめられる内容・分量とする。将来臨床に出た時に役立つような、自己研鑽の姿勢を身に付ける。

必要時間（単位：時間）： 360 時間

達成度評価

総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	40	0	10	0	100
総合力指標	知識・技術力	5	5	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	5	10	0	5	0	20
	協調性・リーダーシップ	5	0	0	0	0	5
	発表・表現伝達する力	5	10	0	0	0	15
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	15	10	0	0	0	25
	問題を発見・解決する力	5	5	0	5	0	15

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
	①	②		
試験	①	✓	OSCE により評価を行う	試験後に口頭で実施。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
	⑦			
レポート	①	✓	各領域の事例についてまとめる。	教員による口頭のフィードバック。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
	⑦			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

ポートフォリオ	①		提出物の内容	教員による口頭でのフィードバック。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
	⑦			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
備 考				
<p>担当教員：◎小沢健一、中西康祐、榎田哲弥、山鹿隆義、浅野克俊、池谷政直、小川麻里子、海保享代</p> <p>大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は登校を認めません。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。</p> <p>教員の実務経験：各教員は作業療法士として様々な臨床経験を有する。</p> <p>実践的授業の内容：臨床実習Ⅱは、臨床実習Ⅰ、作業療法演習Ⅲの単位を取得していなければ受講できない。実習は対象者や実習指導者だけでなく、施設のスタッフの方々など多くの方の協力と支援のもとに可能になっている。学生はこのことを十分理解し、協力していただいた方々、施設への感謝の気持ちを忘れず実習に取り組む。また、「保健・医療・福祉を学ぶ者」としての自覚をもって行動できるよう、心身の健康維持や学ぶ姿勢と積極性について理解しておくこと。</p>				